

(お知らせ)

## 福島第一原子力発電所 3号機における漏えいの疑いのある燃料の 範囲の特定作業の実施について

平成 19 年 8 月 10 日  
東京電力株式会社  
福島第一原子力発電所

当所 3 号機（沸騰水型、定格出力 78 万 4 千キロワット）は、定格熱出力一定運転中の平成 19 年 8 月 1 日、気体廃棄物処理系<sup>\*1</sup>の入口側に設置された高感度オフガスモニタ<sup>\*2</sup>の指示値が上昇し、中央操作室のデータ表示装置に警報が発生しました。このため、気体廃棄物処理系の希ガスを分析した結果、燃料からの漏えいの徴候を示すキセノン 133 の値に有意な上昇（通常値の約 60 倍）が確認されたことから、同日より関連パラメータの監視強化<sup>\*3</sup>を行うことといたしました。

希ガスにつきましては、気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタ<sup>\*4</sup>の指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。  
([平成 19 年 8 月 2 日お知らせ済み](#))

その後、監視強化を行いながら運転を継続しており、キセノン 133 の分析値は高い水準で安定<sup>\*5</sup>しておりますが、本日午後 10 時より、プラントの出力を約 45 万キロワットまで降下させ、安定した状態で制御棒の挿入および引き抜き操作を行い、漏えいの疑いのある燃料の範囲を特定する作業を行うことといたしました。

なお、この作業は、プラントの安全運転に影響を及ぼすものではありません。

以 上

\* 1 気体廃棄物処理系

復水器内の真空維持のため、復水器内で凝縮できなかった放射性ガスを抽出して減衰処理し、排気筒から放出するための系統。

\* 2 高感度オフガスモニタ

燃料棒からの微小漏えいを早期に発見する目的で補助的に設置されたものであり、通常の気体廃棄物処理系の監視は、これとは別に設置されている放射線監視モニタにより監視している。

\* 3 関連パラメータの監視強化

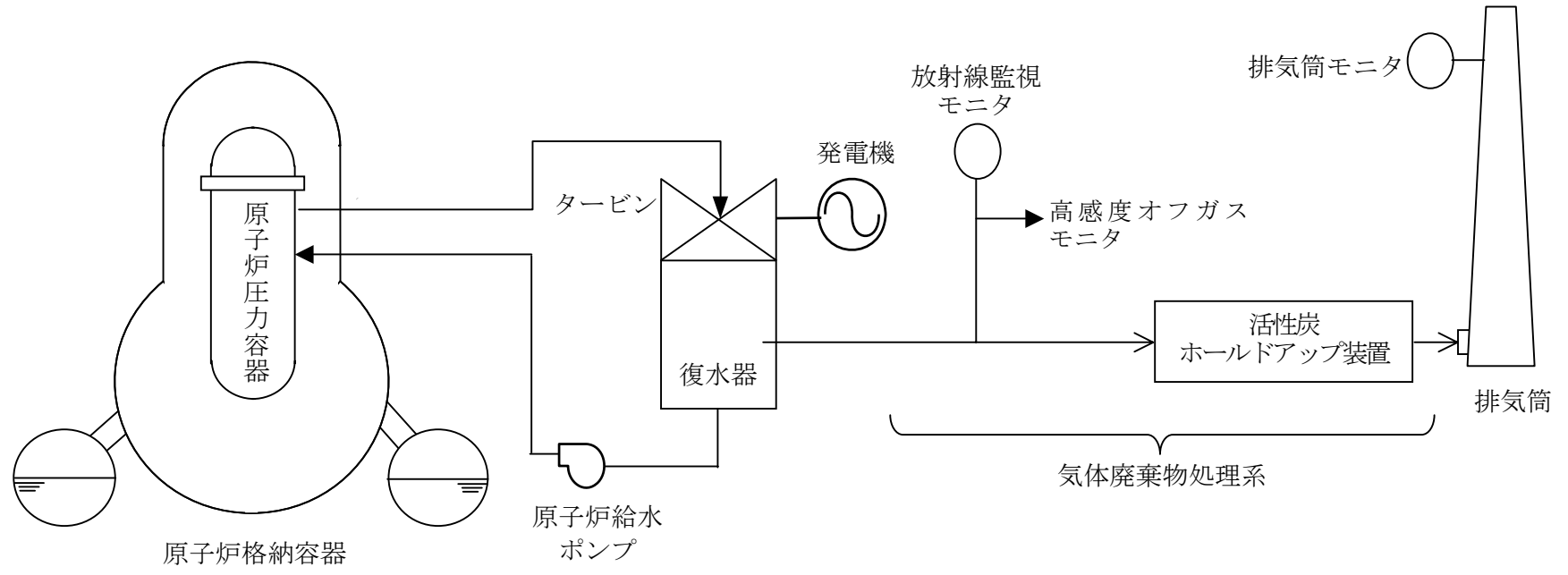
原子炉水のような素濃度および気体廃棄物処理系のキセノン 133 濃度の分析を 1 日 1 回、放射線監視モニタ指示値および排気筒モニタ指示値の確認を 1 時間に 1 回実施する。

\* 4 排気筒モニタ

環境へ放出される排気中の放射線を測定する装置。

\* 5 キセノン 133 の分析値は高い水準で安定

8 月 9 日午前 9 時 50 分時点で、通常値の約 140 倍の水準で安定している。



3 号 機 系 統 概 略 図